

令和4年度 「学校評価の結果」 <学習>

<学習についての考察>

①1の「授業に集中して意欲的に取り組んでいる」の問いに対しては、「そう思う」と回答した生徒はどの学年も8割から9割の生徒が答えており、学習に真面目に取り組んでいることが言えます。教師側も生徒の授業の取り組みは高く評価しています。

②2の「先生は授業を分かりやすく教えてくれる」については、1年生は全員が「そう思う」と回答しており、2・3年生においても8割以上の生徒が「そう思う」と回答しています。また、5の「先生の教え方でよく分からない教科がある」については、「そう思う」と回答した生徒が、全体で1割強であり、2の質問とリンクした結果となっています。この結果は、昨年度に比べ大きく改善された点であり、教師が昨年度の生徒評価を客観的に受け止め授業改善を図り、生徒が更に意欲的に受けてみたいと思える授業づくりに努めた結果ではないかと思われます。

③3の「授業で分からないところは、質問している」については、全体では6割の生徒が「そう思う」と回答しており、教師側も質問に対しては丁寧に答えていると回答しています。分からないことは先生に聞ける雰囲気と環境作りを更に工夫し、授業が「分かった」「できるようになった」を増やしていきたいと考えています。

④4の「家庭学習」については、全体で3割程度の生徒が毎日やっていると回答しています。これは例年の傾向であり本校の課題でもあります。将来に生かされる基礎学力の必要性を認識させるとともに、教師側からの働きかけや課題を与えるなどの手立てを講じ、自ら求めて家庭学習できる生徒の育成に生徒と教師が一体となって取り組んでいければと思っています。